

FIG 2010 シドニー ～ COM7 報告

■ 委員会会合

FIG 2010 シドニー大会 2 日目の 4 月 12 日（金）、午前 8 時から 9 時半まで、委員会別に年次総会等の会合が行われました。COM7「地籍と土地管理」の会合は、シドニーコンベンション・エキシビジョンセンターのベイサイド 103 号室で行われ、COM7 関係者 20 名程度が集まりました。議長は、COM7 委員長の Andras Ossko 氏（ハンガリー）です。

最初に、FIG 2010 テクニカルセッションに関するお知らせということで、プログラムについて最新の情報を各自ウェブで確認してほしいこと、特に、COM7 だけで約 200 本の論文があり並列して多くのセッションが行われるのでプログラムの変更が見込まれることが伝えられました。

続いて、COM7 の年次総会（COM7 では伝統的に FIG 総会・大会とは別に年次総会を開催している）についてお知らせがありました。今年の年次総会は、9 月 6 日から 9 月 10 日までチェコ共和国のカルロビバリ（Karlovy Vary）で開催されることになって

おり、その準備状況等について主催団体から発表がありました。年次総会では、各国からの報告のほか、国際オープン・シンポジウム（ホスト国および COM7 に関連するテーマの講演）、テクニカル・ソーシャルツアー（地籍事務所等への訪問）が予定されています。今年のテーマは、地籍と土地行政であり、発展途上国にとっても土地行政を確立する上で参考となるはずであり、年次総会に定期的に参加していない国の参加も歓迎しているとのことでした。

質疑応答では、ISO/TC211 LADM 作業部会長を務める Christiaan Lemmen 氏が Daniel Roberge 次期 COM7 委員長に対し COM7 の 2011-2014 作業計画について質問したのを契機に活発な議論が行われ、作業計画はチェコで行われる年次総会までに詳細を詰めていくこと、COM7 関係者が Roberge 次期委員長を支援していくことなどが確認されました。



COM7 会合の Ossko 議長



年次総会（チェコ）の案内

■ プレナリーセッションから

4月12日から15日まで、プレナリーセッション（PS）が毎日1セッションずつありました。12日のPS1は「2007-2010のFIGの業績」、13日のPS2は「空間力のある社会（Spatially Enabled Society）」、14日のPS3は「大きな課題」、15日のPS4は「技術的将来」がテーマでした。以下、COM7と関連の深いPS1とPS3について少し紹介したいと思います。

PS1では、FIG会長であるStig Enemark教授（デンマーク）より、「能力強化 - FIGの課題と業績 2007-2010」と題して、志は高く、足は地につけて（flying high and keeping the feet on the ground）、測量者（「土地専門家」）の能力強化（building the capacity）を図ろうと取り組んできたことについて発表がありました。この数年間で、FIGの方針は「測定（measurement）」から「管理（management）」へと大きく変わり、世界中の空間データを取得・管理できる真にグローバルな基盤としての測位基盤が発達し、持続可能な開発を支える土地政策・土地管理戦略を実施するための土地行政システム（land administration system）という考え方が定着し、FIGの役割も深みを増したことが述べられ、FIGの各専門委員会の構成や作業部会、国連機関との連携作業、2007-2010のFIG出版物、FIG事務局の体制などについて紹介がありました。

PS3では、まず、Daniel Fitzpatrick氏（オーストラリア）が、「気候変動、災害管理、土地統治」と題して、自然災害後の土地問題への取り組みに関し、アチェ州での地震後の事例を交えながら、国連のガイドラインとその背景や構想を紹介しました。続いて、Paul Munro-Faure氏（イタリア）が、「よい土地統治」と題して、土地政策・統治に関する戦略、大規模農業投資のための具体的な戦略、責任ある土地保有統治に関する自主的指針の構想について紹介しました。最後に、Mohamed El-Sioufi氏（ケニア）が、「気候変動と持続可能な都市」と題して、土地・環境問題における「原動力 - 圧力 - 環境状態 - 人間への影響 - 対応」という概念的枠組みや、気候変動による都市への影響緩和・適応における「世界土地ツールネットワーク」の有用性などについて発表しました。



PS1で講演する Enemark 会長



PS3の様子

■ 招待セッションから

FIG 2010 シドニー大会では、通常のテクニカルセッション (TA) のほか、招待セッション (INV) と呼ばれるセッションが4つ、フラッシュセッション (FS) と呼ばれるセッションが約30、昼食後の講演 (ALT) と呼ばれるセッション (企業による発表) が3つありました。招待セッションのテーマは、FIG/世界銀行による INV1 が「ミレニアム開発目標を支援するための土地統治」、UN-HABITAT による INV2 が「STDM (社会的保有領域モデル)」、COM3/COM7 による INV3 が「空間力のある社会 (Spatially Enabled Society)」、FIG アフリカ特別委員会による INV4 が「アフリカにおける土地政策」でした。ここでは INV1 と INV2 について少し紹介したいと思います。

INV1 では、まず、Stig Enemark 会長 (デンマーク) が、「気候変動・自然災害・ミレニアム開発目標への対応と土地統治」と題して、土地統治における土地権利・制限・責任の管理、空間力のある政府 (Spatially enabled government) における地籍の重要

性、気候変動への適応を支える土地管理、自然災害リスク管理を支える土地行政のあり方について講演しました。続いて、Klaus W. Deininger 氏 (世界銀行) らが、「ミレニアム開発目標を支援するための土地統治に関する世界銀行の政策」と題して、世界銀行の概要、世界銀行における土地部門の取り組み、土地統治に関する国連/世界銀行の共同イニシアティブについて紹介しました。最後に、Robin McLaren 氏 (英国) らが、「ミレニアム開発目標を支援するための土地統治 - 土地専門職の新たな課題」と題して、ミレニアム開発目標を支援するための土地統治に関する FIG/世界銀行会議の報告、21 世紀の土地統治のあり方、FIG/世界銀行の共同宣言について講演しました。

INV2 では、まず、Stig Enemark 会長 (デンマーク) が、「GLTN の課題を支援する社会的保有領域モデル」と題して、STDM の必要性や開発状況について講演しました。続いて、Clarissa Augustinus 氏 (南アフリカ) が、「社会的保有領域モデル：土地産業および貧困者にとって意味するもの」と題して、世界土地ツールネットワーク (GLTN) の概要、STDM が土地産業および貧困者にもたらすものについて講演しました。最後に、Christiaan Lemmen 氏 (オランダ) が、「安全な保有制度および貧困削減のためのツールとしての社会的保有領域モデル」と題して、STDM (社会的保有領域モデル) の概要を説明し、STDM の試作品のデモンストレーションを行いました。



INV1 の様子



INV2 で講演をする Enemark 会長

■ テクニカルセッションから

FIG 2010 シドニー大会では、約 110 のテクニカルセッション (TS) が行われ、そのうち、COM7 単独によるセッションが 21、COM7 と他の COM との合同によるセッションが 14 ありました。このうち、COM7 単独によるセッションから少し紹介したいと思います。

TS3A 「持続可能な開発のための土地統治」では、Ian Williamson 氏 (オーストラリア) らが、Stig Eneamrk 会長、Jude Wallace 氏、Abbas Rajabifard 氏との共著による書籍「持続可能な開発のための土地行政」の紹介をしました。本書は、これまでの彼らの取り組みの集大成ともいえるもので、2010 年 1 月に出版されました。

TS4K 「土地管理領域モデル (LADM)」では、Peter van Oosterom 氏 (オランダ) らが、「土地管理領域モデル (LADM) における権利・制限・責任」と題して、LADM モデルの概要、実世界の事例として地役権の取り扱い、LA_RRR グループの可否について発表しました。そのほか、「STDM に関連する包括的な土地情報システムの実施における制度的側面」、「土地管理領域モデル (LADM) における空間単位の幾何学」、「土地行政における地下水管理：空間的-時間的観点」について発表がありました。

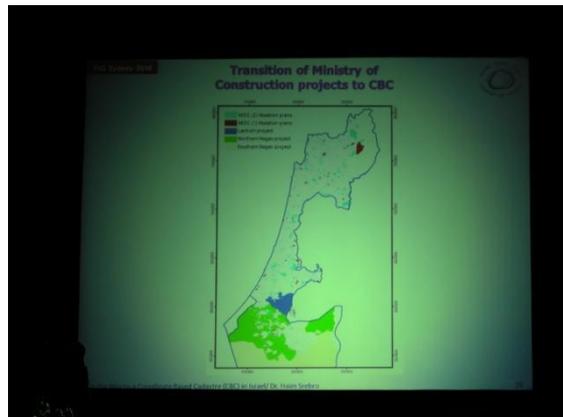
TS5K 「地籍プロジェクト」では、FIG 2009 の主催国であったイスラエルの Haim Srebro 氏が、「イスラエルにおける座標ベースの地籍 (CBC) への道」と題して、イスラエルの地籍の歴史・現状・問題や、解決策として期待される CBC に関する経済的実現可能性・進捗状況・実施中の事業について発表しました。そのほか、「モロッコにおける土地登記プロセスを改善・促進する」、「オブジェクト指向アプローチを備えた多目的地籍情報システムのオブジェクトモデル - 事例研究」について発表がありました。



TS3A で発表する Williamson 氏

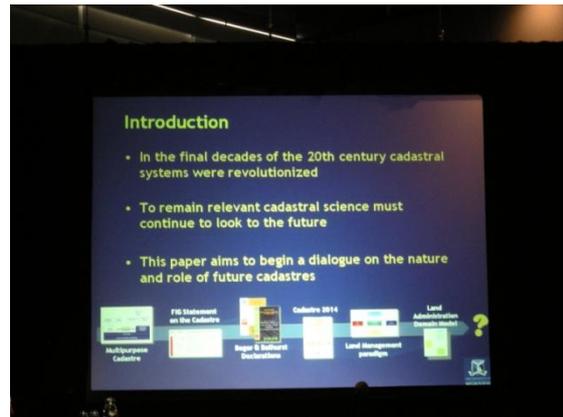


TS4K の Oosterom 氏の発表

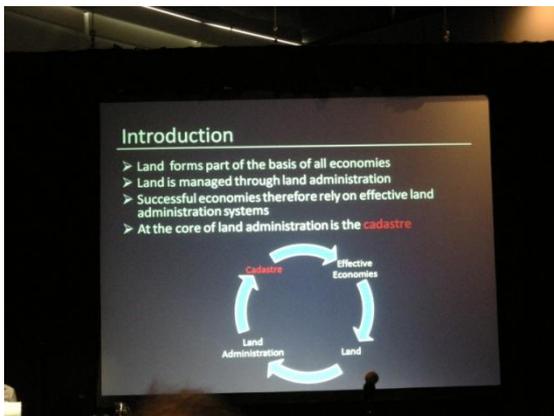


TS5K の Srebro 氏の発表

TS8K「Cadastre 2014 から地籍を展開する」では、Rohan Bennett 氏（オーストラリア）が、「地籍の未来：地籍の本質と役割の新しいビジョンをつくる」と題して、地籍の動向のレビュー（税地籍・法地籍から多目的地籍への移行、Cadastre 2014）、現代における地籍の原動力（政治・法律、環境、技術）、将来の地籍のあり方（測量の精度、オブジェクト指向、3D/4D、リアルタイム、グローバル/ローカル、有機的）についてまとめたいという自身の研究の方向性を述べました。Anna Krelle 氏（オーストラリア）は、「Cadastre 2014：新しい課題と目標」と題して、Cadastre 2014 の 6 つの声明文を現在の状況に照らして見直し、Cadastre 2014 が現在でも有意義な文書であることを訴えました。また、Bill Hirst 氏（オーストラリア）は、「Cadastre 2014 - オーストラリアとニュージーランド：現在と未来」と題して、FIG 2010 シドニー大会の主催国であるオーストラリアの事例を Cadastre 2014 の 6 つの声明文にあてはめ分析しました。そのほか、「Cadastre 2014 の動向に沿ってタイの地籍システムを報告する」について発表がありました。



TS8K の Bennett 氏の発表



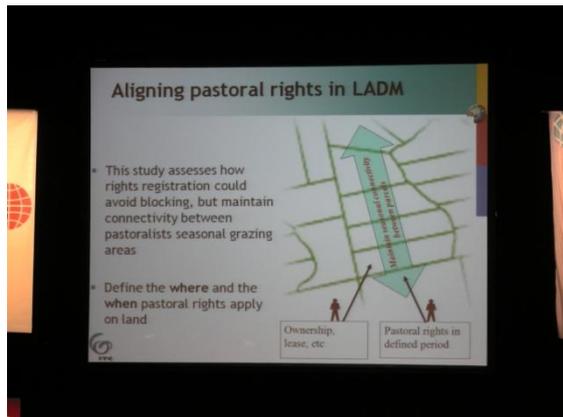
TS8K の Krelle 氏の発表



TS8K の Hirst 氏の発表

TS9A「土地保有システムの開発 - 発展途上国」では、Monica Lengoiboni 氏（オランダ）が、「土地行政のなかの牧畜：牧畜家の時空間的土地権利を土地管理領域モデル（LADM）に適応する」と題して、放牧目的で季節移動する牧畜家たちの土地の権利を LADM にどのように組み込むかを検討するために、放牧地の現状について発表しました。そのほか、「複雑性認識論と不動産権利」について発表がありました。

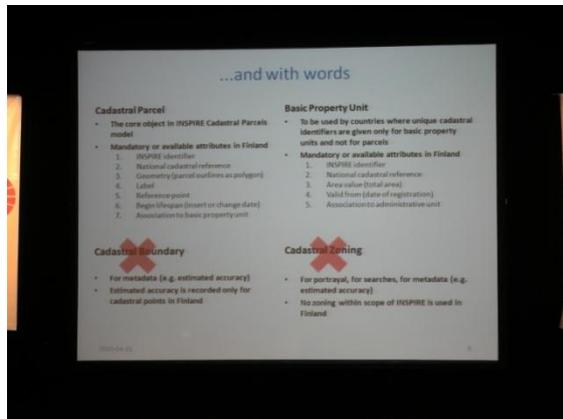
TS10A「地籍の進展 - 先進国」では、Tarja Myllymaki 氏（フィンランド）が、「国際的
地籍モデルを実施するための課題 - フィンランドの事例」と題して、ヨーロッパレベルの INSPIRE、国際レベルの ISO/LADM、フィンランドの事例を照らし合わせて分析し、LADM は INSPIRE よりも範囲が広く、概念的で、共通理解がしやすく、一般的であるゆえに将来性があると述べました。また、Daniel Roberge 氏（カナダ）は、「課題に優位に立ち向かうために、ケベックの地籍・土地行政活動を再考し再構築する」と題して、ケベックにおける測量の歴史、成し遂げてきた任務、達成された目標について発表しました。そのほか、「マレーシアにおける統合 3D 地籍登録システム」について発表がありました。



TS9A の Lengoiboni 氏の発表



TS10A の Myllymaki 氏の発表



TS10A の Roberge 氏の発表

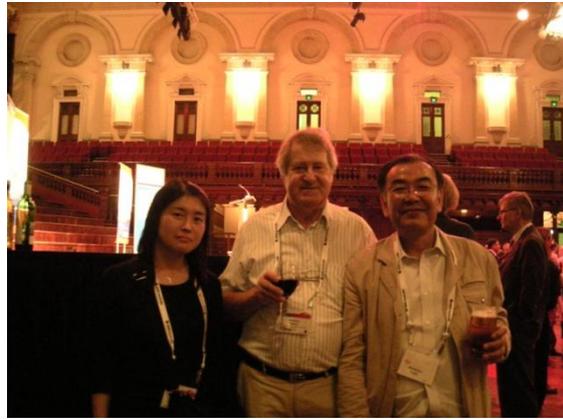
■ ソーシャルイベントから

4月11日（日）、総会セッション1の終了後、午後7時から午後9時頃まで、シドニー・タウンホールにおいて、ウェルカム・レセプションが行われました。日本土地家屋調査士会連合会からは常任理事の藤木政和研究所長と小野伸秋業務部長が参加し、FIG会長のStig Enemark 教授、COM7 委員長の Andras Ossko 氏、ISO/TC211-LADM 作業部会長の Christiaan Lemmen 氏らと交流を深めました。

4月14日（水）の夜には、シドニー近郊の測量者宅を訪れるホーム・ビジットというイベントがありました。日本土地家屋調査士会連合会からは常任理事の小野伸秋業務部長と山田一博広報部長が参加し、訪問宅に集まった各国の測量専門家たちと交流を深めました。小野業務部長がお土産として持参した日本の地券にも関心が集まり、大いに盛り上がったようです。



左から 藤木所長、Enemark 会長、
西氏（日本測量者連盟総幹事）、小野部長



Ossko 氏（中央）、藤木所長（右）



左から Lemmen 氏、藤木所長、小野部長



測量者宅を訪問した
小野部長（左1番目）、山田部長（左3番目）